

(1) 本年度の N I E 活動の概要

本年度は、N I E の活動 1 年目ということで、「新聞をどのように授業と関わらせるか」を中心に係で検討し授業実践を行った。低学年は新聞の写真を通して話題提供をした。4 年生では新聞に掲載されている事柄を知る授業や、自分の身の回りの話題を新聞形式にする授業を行った。高学年では、学習内容に対し、新聞記事の内容から取り入れられそうな情報を選び、記事から考える授業を行った。これらの実践から、発達段階に応じた授業への新聞の取り入れ方が見えてきた。また、じっくりと取り組むことで少しずつ子どもたちの読み取りや、書く力がついてきたことも実感できた。

(2) 本年度の N I E 活動をはじめる前の状況

本校は全校児童 5 2 5 名、2 4 学級（内特別支援学級 6）である。研究前に行ったアンケートからわかったことは以下の通りである。

- ・新聞をとっていない家が多く、新聞が無いいためか、自ら進んで新聞を読む児童は少ない傾向にある。
- ・新聞に興味のある記事は、テレビを見て知った内容をきっかけに見ていることが多い。
- ・4 年生では家で新聞をとっていないなくても、読んだことがある児童は多かった。
- ・5 年生には、地方記事や政治に関する記事にも目を通していて、興味関心が「身近なこと」や「自分の好きなこと」から広がってきている。

(3) N I E 活動の狙い（育てたい力）

N I E 研究部会 研究テーマ

「新聞をきっかけに、事象に興味・関心を持ち、自ら考えようとする子ども」

(4) 公開授業以外を含めた N I E の取り組みの状況

本校での本年度 N I E 活動の取り組みは以下の通りである。

- ・全校アンケート実施・素材研究・新聞閲覧コーナー設置・係内授業・データベースの利用

○新聞閲覧コーナー設置について

9 月から児童昇降口の広場に 7 社の新聞を掲示した。はじめは置かれた新聞の第 1 面を眺めていただけだった子どもたちが、徐々に新聞を手に取り、友達とテレビ欄を見るようになった。すると毎日 4 コマ漫画を読み比べる子、天気予報の欄があるのに気づき天気の話をしてる子、記事の内容に目を通す子、とさまざまな姿が見られるようになってきた。

○係内授業について

①新聞が読めない児童に興味をもたせるには（1年 3年 特別支援学級）

入学して間もない1年生には、将棋の藤井聡太さんが最年少七冠を長野県で取った記事とその時に食べたものを紹介した記事を提示した。大きく顔写真が載ったものを出すと、「テレビで見た」「将棋の人だ」と盛り上がった。食事とおやつの記事にも興味を示していた。

3年生には酪農家が危機的状況に陥っている記事を紹介した。取り上げられていたのは松本市波田の酪農家で、新聞に載っていることは身近な出来事だと、子どもたちは実感したようだった。自分にできそうなことを考える場面では真剣に考えていた。

特別支援学級では、児童が好きな電車や恐竜に関する記事が載る新聞を掲示しておいた。すると、写真を見て「これ、何て書いてあるの?」と、教師に問いかけた。

「南小谷駅で大糸線9駅をデザインしたアクリル製スタンドがガチャガチャになって置いてある」と紹介したところ、実際に電車で南小谷駅まで行って、ガチャガチャをやってきた児童がいた。



写真を紹介する形にすると、1年生でも興味もてる。「話題の人」「季節」「食べ物」に関する記事が分かりやすく低学年でも理解できそうであった。また、特別支援学級では写真から記事の内容に興味をもち、担任に尋ねるなど意欲的に新聞に関わることができた。

3年生になると、子どもたちの**身近な問題**に興味をもち、多少難しくても記事の内容も自分で読もうとする姿が見られた。(記事にはルビをふった。)また、インターネットではなく新聞だからこそ**信憑性が高く**、子どもたちにとって腑に落ちる内容となったと考えられる。

②新聞についてある程度理解できるようになり、授業で新聞づくりに取り組む4年生

4年生は新聞を作るにあたって、新聞とはどのようなものか特徴を見つける授業をした。子どもたちは持ち寄った新聞を見て、どの新聞にも「新聞の名前」「日にち」「会社名」「見出し」「写真や図」などがあることに気づき、自分たちが新聞を作るときはこのような形にしていこうと見通しをもつことができた。

別の授業では、社会科見学後、新聞にどんなことを書きたいか考え、書きたいことをうまく伝えるために、小学生向けの新聞を見て、工夫を見つけ合う授業を行った。「見出しは目立つようにする」「表にして比較したいものを比べやすくする」「絵や写真を入れる」など、たくさんの工夫を見つけ、自分はどれを取り入れたいか考えることができた。

新聞という媒体の特徴を捉えられる発達段階になり、各社の**新聞の共通点**などに気づくことができていた。

また、自分が新聞を書こうとする場面では、**内容が分かりやすい小学生向けの新聞**を使ったことで主体的に伝える工夫を探し出すことができていた。

「表紙に載っている数字(号数)はフォロワー数かな。」と、つぶやく子がいた。新聞とSNSの違いをまだ知らないのだと感じた。これは、自分たちの経験から出てきた言葉である。逆に言えば新聞にまつわる経験が少ないと考えられる。新聞についての情報体験など広めていく必要があると感じた。

③ある程度新聞記事が読めるようになってきた5年生

5年生は「これからの食料生産とわたしたち」という単元で、いくつかの新聞記事から“食料を輸入に頼っている状態がどうして問題なのか”を探り、自分事として受け止めることをねらいとした授業をした。何が「日本のピンチ」なのかを新聞記事から探る場面で、資料としてロイロノートで記事を複数配信した。記事をみて「こんなにあるの」とつぶやく子もいた。一人ひとりが、記事から日本のピンチを感じ取りノートにまとめようとしていた。

ロイロノートで事前に必要な新聞記事を整然とまとめてあったのがよかった。また、資料を提示するとはじめの資料から読んでいく子が多かったことから、**読む資料の順番をずらして与える**という方法も有効だと考えられる。5年生になると**新聞をそのまま提示**しても記事の内容について考えられる子が多いと感じた。しかし、まだ個人差が大きく記事の受け止めは個々に違った。

※実践授業をしてみても授業に生かせること

一般の新聞は大人向けに作られており低学年には難しいが、写真を通して話題の記事を紹介すると興味をもち新聞を身近に感じるのに効果があることがわかった。4年生は新聞の形式を学習するためには一般の新聞が、内容を知るためには子ども新聞が有効であった。また、5年生以上は一般の新聞でも記事を選んで活用すれば、記事をきっかけにいろいろ考えられることがわかった。

(5) 公開授業などの活動内容

単元名 「今、私は、ぼくは」(6年)

1 単元設定の理由

6年3組の子どもたちは様々な仲間と明るく元気に過ごす姿が多く見られる。しかし、自分の考えを生み出すことや考えを表出することに苦手意識をいっている子どもたちが多くいるように感じている。また、周りのことに対して関心を寄せたり興味をもったりすることが少ない様子も見受けられる。

今年度社会の歴史の学習で、長い時代戦いが続いたことや原子爆弾が投下されたことを学習した。また日々の生活の中で、世の中では様々な問題が起こっていることを子どもたちは知っている。それらを活かして、これから平和に暮らしていくために自分にはどのようなことができるのか、またどういうことを大切にして過ごしていきたいのかについて考える機会にしたいと考えた。

本単元では、過去の小学校6年生の子どもたちが発信してきた平和への誓いの文を用いる。記事を読むことで、毎年平和への誓いが述べられている事実を知り、その誓いを述べている子どもの背景について深く知ることができる。誓いの文を同じ年の子どもたちが考えているということから、より記事に興味をもって主体的に読むであろう。また、自分なりの考えや、考えに対する根拠をもつことができるであろうと考える。

平和についての自分のイメージをふくらませ、新聞記事を読みながら平和に対する自分の考えやそれに対する理由を深め、自分なりの理由や考えが伝わるように文章にしてクラスの仲間に発信することを通して、自分の考えを表出することの心地よさを味わったり、仲間の考えに思いをよせたりできるようになってほしいと願い、本単元を設定した。

2 単元の目標

- (1) 文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解することができる。
- (2) 目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすることができる。
- (3) 資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して，思いや考えを伝え合おうとしている。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解することができる。((1)カ)	①目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア) ②資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。(A(1)ウ)	①言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して，思いや考えを伝え合おうとしている。

4 単元展開の概要

時	学習活動	指導上の留意点	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の内容を読んで，学習の見通しをもつ。 ・平和へのイメージを書きだす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に発想したり，周りの意見に左右されずに考えたりできるように，あえて助言をせず活動の様子を見守る。 	イ①
2	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を読んで印象に残った言葉や文に印をつける。 ・班で意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの記事か分かるように，あらかじめ記事に番号をつけておく。 ・子ども新聞の記事も用いながら，全員が記事を読むことができるようにする。 	ア①
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・誓いの文を書くための考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誓いの文のイメージがもてるように，文の構成を活動の前に示す。 	イ①
4・5	<ul style="list-style-type: none"> ・平和への誓いを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えが効果的に伝えられる言葉や文章が選んでいるかどうかを考えて文を書くことができるように見返してから書くよう促す。 	イ②
6	<ul style="list-style-type: none"> ・誓いの文を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えに自信をもって伝えることができるように，練習の時間を設定する。 	ウ①

5 本時案

(1) 主眼

平和についてのイメージをふくらませ，自分たちが生まれてから12年の間に書かれた「平和への誓い」に関する記事や誓いの文を読み，班で意見交換した子どもたちが，自分の「平和への誓い」を書くための構想を考える場面で，自分が気になった言葉や記事を見返しながら平和に対する思いをワークシートに書き出したり，班で共有したりすることを通して，自

分が感じたことや考えたことを書くことができる。

(2) 評価規準

自分が気になった言葉や記事から自分が感じたことや考えたことを書くことができる。

(3) 本時の位置 (全6時間扱いの第3時)

前時：新聞記事を読んで印象に残った言葉や文に印をつけた。

次時：平和への誓いを書く。

(4) 指導上の留意点

誓いの文のイメージがもてるように、誓いの文の構成を活動の前に示す。

(5) 展開

段階	学習活動	<input type="checkbox"/> 学習課題 ・予想される児童の姿	<input type="checkbox"/> 教師の支援 <input type="checkbox"/> 評価	時間
導入	1 ワークシートを見ながら、これから行う活動の見通しをもつ。	【学習問題】 「平和への誓い」を書くための考えをまとめよう。 ・印をつけた記事の言葉を書き出して考えればいいかな。 ・誓い文を書くためにたくさん考えよう。	<input type="checkbox"/> 誓いの文の構成を示す。 <input type="checkbox"/> 誓いの文を書くためにワークシートにまとめることを伝え、記事を読んで感じたことや自分の考えをたくさん書くよう伝える。	5
	学習課題：自分が気になった言葉や記事を見返して、自分が感じたことや考えたことを書こう。			
展開	2 ワークシートに自分の考えを書く。	・印象に残った言葉の記事をもう一度読んで考えてみようかな。 ・やっぱりこの言葉が気になるな。 ・見返してみると同じ言葉に線をたくさんひいていたから、このことが気になったことだな。 ・今自分にできそうなことってどんなことがあるかな。	<input type="checkbox"/> メモや印をつけた記事をもう一度見返して、気になったことをもとに自分が感じたことやできそうなこと、自分がどうしていきたいかを考えて書くよう伝える。 <input type="checkbox"/> 記事の言葉をそのまま使うのではなく、自分の言葉で表すことを確認する。	15
	3 班で考えを共有する。	・私もその言葉気になったな。 ・その考えいいなあ。	<input type="checkbox"/> 自分が考えたことを伝え合い、参考にしたい言葉や考えがあればメモをとるよう伝える。	5
	4 友だちの意見を参考にしながら再度自分の考えを書く。	・友だちの言っていた言葉が気になったから、その記事を読んで考えてみようかな。 ・いろんな言葉に線を引いているから、どのことを書いたらいいか困るな。	<input type="checkbox"/> 班員の意見も参考にしながら、ワークシートを書くよう促す。 <input type="checkbox"/> 何を書こうか迷っている児童には、特に伝えたいことから順位付けをして考えたらよいことを伝える。	15
まとめ	5 ふり返りを記入し、次時の活動の見通しをもつ。	・しっかり書けたから誓いの文も何とか書けそうだな。 ・まだ書けていない所もあるから、次回しっかり書いてから文を書こうかな。 ・自分はこれからこんな風に行動していきたいな。	<input type="checkbox"/> ワークシートを見ながら1時間の活動のふり返りを書くよう促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分が気になった言葉や記事から自分が感じたことや考えたことを書くことができたか(ワークシート) </div> <input type="checkbox"/> ワークシートを見ながら、自分の平和への誓いを書くことを確認する。	5

【この単元で子どもが書いた「平和への誓い」文】



(6) 1年間取り組んだ成果と課題

① 年間を通しての成果

- ・新聞と接する機会があると、子どもたちは自分の興味のある話題の記事を見つけようと、進んで新聞に目を通すようになる子が思った以上にいることが分かった。
- ・データベース(有料)を使うと授業に関する記事を見つけやすくなり授業の幅が広がった。
- ・係内授業をしてみて、発達段階にあった授業への取り入れ方が、実感としてわかってきた。
 - 1～3年…記事の紹介(写真での紹介→記事の紹介)記事から内容について考える学習など。
 - 4年…新聞を作るうえでの工夫(見出し・写真・図など)を実際の新聞から見つける。身近な出来事から新聞を作る。
 - 5, 6年…授業内容に合わせて新聞記事をそのまま用いる。

② 研究授業から得た成果

- ・係内授業で行った5年生の事例を取り入れ、データベースからの記事をロイロノートで配信することで、子どもたちは、すっかりした机上でじっくりと読みたい記事を読みこなすことができた。
- ・取材をして書いたものが新聞だが、授業ではその新聞を「誓いの文」を書く取材対象として取り扱うことができた。
- ・本単元を通して6年3組の子どもたちの読む力・考える力・書く力がついたように感じている。これは、選んだ教材が児童の実態に合っていたことと、取材対象(新聞記事)にじっくり向き合うことができたことがよかったのではないかと研究グループでは考察した。また、じっくり向き合った新聞記事の文章や言葉がもつ力が子どもたちにとってよい刺激になっていることも考えられる。

③ 課題

- ・7社から4か月間新聞を取り寄せたが、コーナーを作るほかはうまく利用できずもったいなかった。よい利用法を考えたい。
- ・新聞づくりに関しての研究はあまりしなかった。4年生は、NIE推進協議会の方に新聞づくりの出前授業をしていただいたのでその授業についての研究も行えばよかった。